

五号館屋上庭園見学会



季節の花が咲き誇ります

みなさんは、我が大学に知る人ぞ知る穴場の場所をご存知だろうか。そこは、五号館（通称グリーンホール）屋上である。

朝からみぞれ混じりの雨で、手がかじかむ程の寒さだった一月二十六日（水）に庭園の見学会が行われた。午後一時から始まった見学会には、試験期間中ということもあり学生の参加は見られなかったが、職員の方が大勢集まった。

この屋上庭園は、環境学科による環境プロジェクト特別演習の授業（担当教員・村松陸雄先生）の一貫として行われている。この授業は一年後期から四年前期までの履修で、長い時間をかけて環境を実践的に学ぶことが目的とされている。

庭園造りのきっかけは、「殺伐とした屋上を温かい憩いの場として利用したい」という環境学科の五人の学生から要望があったことから始まった。昨年の一月初旬から動きだし、週一回の打ち合わせも念入りに行ってきた。実際に、園芸展に行ってきた。自分で自分たちでできるのかも見てきた。誰の手も借りず

全てが学生の手によって造られた庭園。ここまでやるのには、多くの苦労があったようだ。何より予算が限られていること。

決まった予算でいかに緑や花を増やすことができるのか、悩みに悩んだと言う。他にも、水をあげることができないという問題に直面した。そこで考え出したのが、自動淡水システム。冬場の間は、朝十時から三分間自動的に水があげられる状態になっている。見えないところで工夫されていることに説明を受けていた職員の方は、すごいなと頷いたり、身を乗り出して見たい。

学生ならではのおしゃれもある。大きな植木鉢にライトを付けて夕方にはきれいにライトアップもされる。また、柱と柱の間にはベンチも設置されゆつくりと時間を過ごすこともできる。

これも全て学生が提案したものだ。同じ大学に通う学生が、ここまで造ることができるとこの時初めて知った私も感心するばかりだった。

五人の学生は、まだまだやりたいことはあるようだ。「柱に金

網をつけて蔓をたらし家の庭のようにはできないか」、「屋上全体を芝生張りにしたい」、「秘密の花園のイメージでレンガの道造ってみたい」など尽きることはない。

取材をして一週間経ったころ、私はもう一度屋上に行ってみた。するとそこには、友達と談笑している学生が大勢いた。ベンチに座りながら話をしていたり、花を囲むように話している学生もいた。

学内で屋上を開放しているのはここ五号館だけである。これからの季節、一番花がきれいに咲く時期である。ぜひ、友人を誘い学生が造った屋上に足を運んでもらいたい。安らげる空間に、思わず学内にいることを忘れてしまうかもしれない。かつて、グリーンホールという名前なのに緑がないと言われていたが、今では学生の手によって、きれいな花が咲いている。

今回、取材ということで始めて屋上に足を踏み入れた。それまで、屋上が開放されていることも知らなかった私は、もっと

早く気付いていればと後悔した。既にこの屋上は、私のなかで学内のお気に入りの場所の一つになった。

（中野恵朱・現社）

「集まれ！憩いの場へ」



屋上で談笑する学生たち